

狛江市立狛江第四中学校 令和6年度学校経営計画

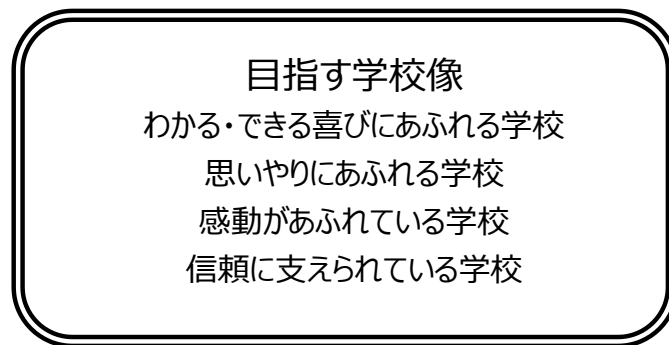
〇 今年度の大きな4つの柱

授業が勝負！ 生徒の学ぶ意欲を育てる。わかる・できる喜びをもとに信頼関係を築く

自他を大切にできる心の醸成 SOSの発信の仕方を含め、人権教育の推進 関係諸機関連携

WEBQU アンケートへの取り組み 生徒視点に立った指導と個に応じた指導の基礎とする

コミュニティスクールの推進 キャリヤ教育を中心に置いた9年間を見通した取り組み



1 人権教育の推進

- (1) 学校の教育活動全体を通じて人権教育を念頭に置き、事あるごとに人権課題を生徒たちに問いかけながら指導し、差別や偏見、そしていじめを生まない・許さない心をはぐくむ。 《思いやり》
- ・ Web-QU への取り組みの重視 結果を活用すること 絶対にやりっぱなしにしない
 - ・ Web-QU アンケートの結果を活用して学級経営の資料とし、分析結果を全職員で共有し、配慮すべき生徒を確認し、支援する。そして学校生活満足度の向上を目指す取り組みを行う。
 - ・ 人権教育のさらなる推進と充実 LGBTQ を念頭に置いて 校内研修の実施
 - ・ 朝の一行日記の活動により、言語による表現を通じて、生徒の心身の状態を把握し、生徒とのコミュニケーションを深めていく手立てとする。
- (2) 「特別支援教育の視点を持つ指導」を展開する。自他の個性を尊重し、他者を思う心を育てるため、一人一人の特性を理解し、共有した上での指導を展開する。 《思いやり》
- ・ 授業で培った生徒との信頼関係を基盤に、特別支援教育の視点を持ち、小規模校ならではの暖かくも厳しい生徒指導を展開する。
 - ・ 校内委員会が中心となり、組織的な指導体制を充実させるとともに、それぞれのニーズに応じた支援・指導を巡回相談等で専門家のアドバイスをいただき、学校全体で共有する。
 - ・ くすのき学級へ通級する生徒の情報を双方で共有するとともに、指導の改善を図っていく。

2 生きて働く力と国際社会で活躍できる力の育成 《感動》

カリキュラムマネジメントに必要な「教科横断的な視点」[PDCA サイクルの確立]「教育内容と人的・物的な資源の効果的な組み合わせ」の3つの視点を踏まえ、以下の教育活動を展開する

・学校行事をはじめとした諸活動において、学年学級縦割りグループによる活動を重視し、異年齢集団による望ましい活動を通じて学年を超えた幅広いコミュニケーション能力や上級生としてのリーダーシップや責任感を培う。そして、下級生との信頼関係を築くことで、社会性や豊かな心、ボランティアマインド(四中 220 レガシー)を育成する。

- ・日本人であることを誇りに思う心を育てる 国際社会で活躍できる力の育成
- ・音楽の箏の授業や体育の柔道、3年生時の修学旅行等を通じ日本の伝統文化に触れ、生命や人権について学び、自然と共存しながら人々がつながり、感謝し支え合う社会の担い手の育成を目指す。
- ・合唱への取り組みを通じて、クラス・学年・学校の一体感と達成感を育み、感謝の気持ちを伝える方法として生徒たちに四中の伝統を引き継がせる。
- ・豊かな国際感覚を育て、グローバルに活躍できる人材の育成を目指し、オンラインスピーキングやESAT-Jへの取り組みを通じて、個に応じた指導の充実を図る。
- ・行事や総合的な学習の場面における地域の方々との交流を積極的に図り(四中スペシャル等)、人と人とのふれあいの大切さを学ぶことで、他社を尊重する心を育む。
- ・狛江第五小学校児童会との連携した挨拶運動では、本校生徒会との意見交換や、地域の方々の協力を得ながら実施することで、小中及び地域との連携を深める。
- ・学校行事や生徒会活動において、創作スキット活動を行い、発想力や構成力、プレゼンテーションスキルの育成を目指すとともに、人を楽しませることの喜びを知り、人を笑顔にするための行動への意欲を喚起する。
- ・生徒の体力向上を目指し、保健体育の授業における「体づくり運動」の学習を重視し、本市におけるかけはしプロジェクトの成果等を取り入れ、体を動かす楽しさを味わわせることで、生涯にわたって主体的に運動に取り組める資質を育む。

3 コミュニティスクールの推進 地域に支えられた四中 《信頼》

コミュニティスクール(CS)・学校運営協議会の本格化

・狛江第五小学校との連携活動内容の進化を図り、4つの分科会での協議を推進し、キャリア教育を基盤とした義務教育9年間を見通した活動を行う。

- | | |
|------------|-----------------------|
| 【教育課程部会】 | 心の教育を推進 |
| 【生活指導部会】 | 生活指導の充実を図る |
| 【学習進路指導部会】 | 学力の向上・保証を目指す |
| 【地域部会】 | CSと地域学校協働本部の一体的な推進を図る |

予定される取組

四中スペシャル 職場訪問・職場体験 挨拶運動 狛江探検 授業交流(かけはしP)
児童の部活動体験 地域・五小夏祭りへの参加 吹奏楽部・美術部・合唱部の地域での発表
主権者教育の取組 プログラミング学習の更なる発展 よつば自習室への取組

4 授業の改善・充実 《わかる・できる》

(1) 深い学びの実現を目指した生徒の活動が主体となった授業の展開

- ・主体的・対話的で深い学びを実現していく授業改善の推進。
- ・授業の冒頭にその時間のねらいを明示し、生徒にとってわかりやすい授業を工夫し、展開する。
- ・漢字検定・英語検定の受検を奨励し、学習意欲の喚起を図る。
- ・多様な他者と協働しながら、持続可能な社会に創り手となるよう、協働的な学びも重視する。
- ・朝読書を含め、読書活動の充実と学校図書館を活用し、生徒たちの読書への意欲を高める。

(2) 教育活動の質の向上を図るカリキュラムマネジメントについて

- ・各種学力調査、定期考査の結果、都立高校入試結果との相関関係、そして生徒授業アンケートの結果を見ながら指導方法の改善を図り、指導と評価の一体化をさらに充実させる。
- ・探究的な学習を通して、他教科等で習得する知識や技能と関連付け、実生活・実社会における改題解決に活用できる力(課題発見・解決能力)を育成する。
- ・異年齢集団や問題解決学習を通して、他者と関わること(人間関係形成能力)や、自ら課題を設定し、整理分析、まとめを行うことで、主体的に判断し未知の状況においても自己の生き方を選択できる資質や能力(自己実現力・実践力)を育成する。
- ・個に応じた指導を推進し、数学科や英語科における少人数指導においては、ガイドラインに沿った指導を展開し、学習意欲の向上を図る。

5 環境の整備 「目指す学校像の実現に向けて」

(1) ・GIGA スクール構想の実現に向け、プロジェクトチームを中心とした取組を充実・実行する。

- ・ICT 機器をどの教員も活用し、生徒の学習意欲と効率を高め、機器を普通に活用する。
- ・個別最適な学びを目指し、タブレット端末の活用をはじめ、個に応じた指導を展開する。
- ・生徒による授業アンケート(年2回)の結果から指導方法の工夫・改善と検証を行う。
- ・デジタル教材の活用を推進し、積極的な仕様の中で、有用性を見出していく。
- ・探究的な学習を図書館やタブレット端末を使って実施し、その中で自分の意見を作り出し、表現できる言語力を育成する。

(2) 人材育成による教職員の資質の向上

- ・令和6年3月に改訂された狛江市教育委員会からの学校の働き方改革プランに則り、5つの方策・14の取組を踏まえた改革を、経営支援部を中心として推進していく。
- ・「勤務の上限に関する方針」に則り、本校独自で工夫を凝らし、働き方改革を進める。時間外勤務は45時間以内、年360時間以内を目標とし、超過勤務削減とLWBの実現を目指す。
- ・校務支援システム活用を見直し、マイクロソフトチームスを中心とした連絡・会議資料提示方法を、経営支援部が中心となって推進する。年度内に、ペーパーレスで会議ができる環境を作り出す。
- ・教員が一人で問題を抱え込まないよう、学年・学級を超えて、全職員で全生徒を見ていく姿勢ですべての教育活動を行っていく。
- ・サービス事故ゼロを念頭に、副校長を中心として職員室の規律を保ちながら、絶対に起こさないことを念頭に、職務に当たるよう常に職場全体に指導を行っていく。
- ・年3回のサービス自己研修はもちろんのこと、職員の危機感を保つためにも都内で起きているサービス事故の現状と、サービス班からの「ふくむレター」を定期的に職員に配信し、意識を保っていく。